

テクノの未来を考えるニュースレター



第3回 播磨科学公園都市の 新たなあり方検討協議会を 開催しました！

第2回協議会に引き続き、今後の播磨科学公園都市の新たなまちのあり方について考えるため、令和7年12月24日(水)に第3回協議会を開催しました。

第3回協議会では、第2回協議会(前回)の振り返りや、その後の検討状況、今後の進め方などについて事務局から説明を行い、委員の皆様からさまざまなご意見をいただきました。主な発言は、裏面に掲載していますので、ぜひご覧ください。

今後もこのニュースレターで、協議会の開催状況や検討内容をお知らせしていきます。

開催概要

- 日 時: 令和7年12月24日(水曜日)
15時00分～17時00分
- 場 所: ひょうご環境体験館「シアター」(佐用町光都)
- 出席者数: 21人(現地参加14人、リモート参加7人)
- 議 題: 報告
第2回協議会(前回)の振り返りと
以降の動きについて
議事
(1) 今後の進め方について
(2) 意見交換



当日の様子

出席者名簿

区 分	所属・役職	氏 名
地元市町	たつの市長	山本 実
	上郡町長	梅田 修作
	佐用町長	江見 秀樹
有識者	地域政策・地域経済、福祉	兵庫大学 生涯福祉学部 教授 田端 和彦
	都市計画	兵庫県立大学 環境人間学部 教授 太田 尚孝
	都市政策	関西学院大学 建築学部 教授 清水 陽子
	合意形成	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 准教授 高田 知紀
アドバイザー	研究機関、科学技術	国立研究開発法人 理化学研究所 放射光科学研究センター センター長室 高度研究支援専門職 伊藤 裕文
	建築・都市デザイン	大阪公立大学 特別教授 橋爪 紳也
	地域政策・地域活性化	兵庫県政策コーディネーター 岩浅 有記

区 分	所属・役職	氏 名
兵庫県	副知事	服部 洋平
	兵庫県立大学理学部教授・学長特別補佐(先端研究・放射光担当)	田中 義人
	総務部長	有田 一成
	企画部長	守本 豊
	福祉部長	岡田 英樹
	保健医療部長	山下 輝夫
	産業労働部長	小林 拓哉
	土木部次長(土木部長代理)	大谷 浩司
	公営企業管理者	梶本 修子
	病院局長(病院事業管理者代理)	梅田 孝雄
	西播磨県民局長	城下 隆広

委員等からの主な発言



こちらから協議会全体の発言を
ご覧いただけます！



市町長

- 粒子線医療センターを令和9年度末までに廃止する方針、強度行動障害対応モデル地区の事業化の中止、サッカー場の大規模修繕要望に対する県からの説明が必要である
- 企業庁の資金的な課題を踏まえ、解決の方向性を一定示した上で、議論を進めていくべき
- 地域意見交換会等で得られた意見を今後の検討に反映するとともに、土地活用(枇杷ノ谷等)やSPring-8を軸とした連携を深めていくべき



県

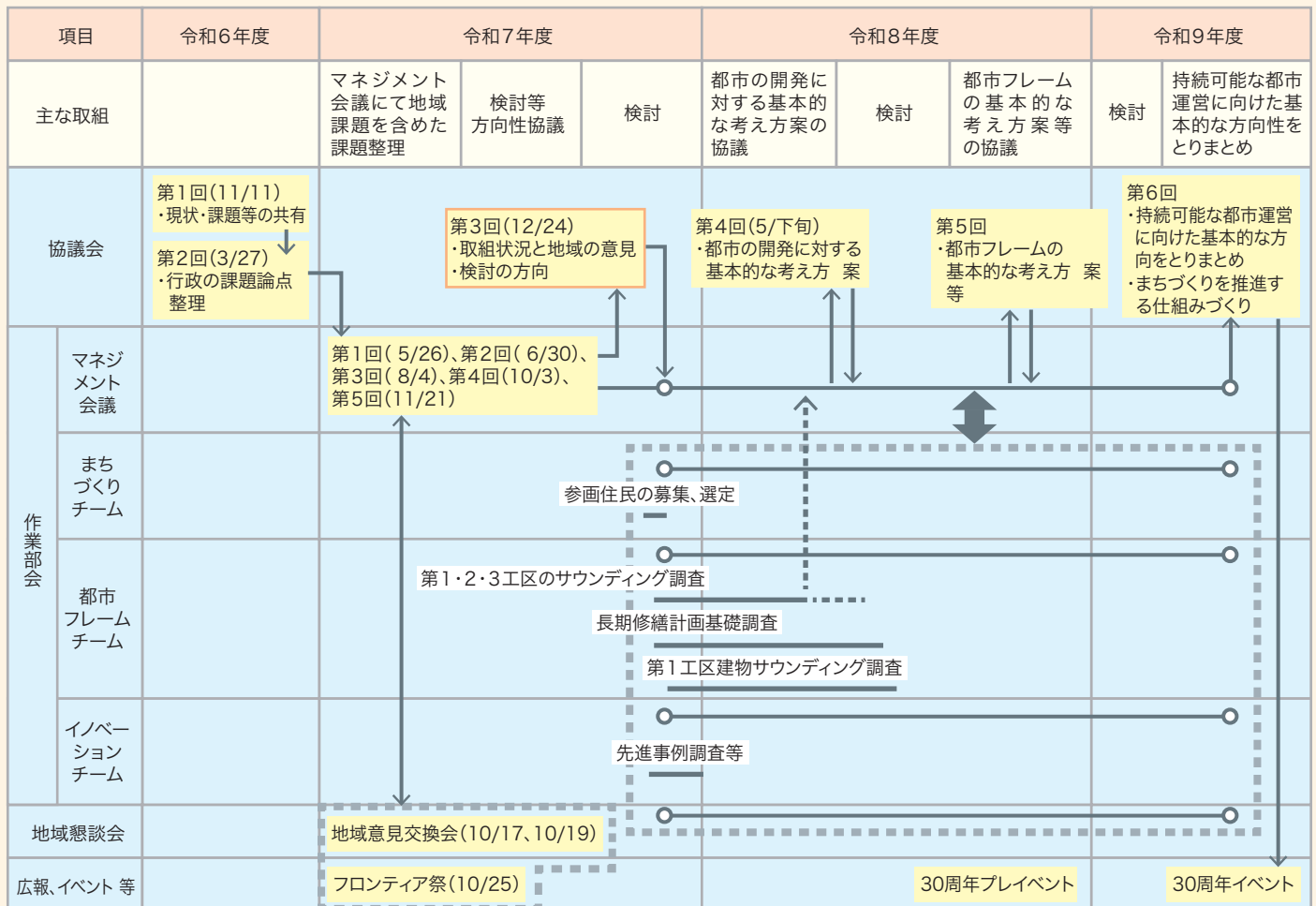
- 県として県事業に関し改めて丁寧に説明したい
- 関係者とともに検討を進め、将来を見据えた前向きな解決策を探っていききたい
- 枇杷ノ谷も未利用地として検討対象に加え、サウンディング調査を実施する予定
- 現在は検討の出発点にあり、本日の意見・留意点を今後の取組に反映し、未来志向で進めていきたい



有識者等

- 地域住民が自ら課題解決していくために、将来像を描き、行動できる土台を構築することが重要
- 既存の機能を消費・暮らしの視点から見直し、新たな役割やイノベーションにつなげていくべき
- この街を良くしたいという共通の想いのもと、関係者が一体となって議論を進めて行くべき
- SPing-8、兵庫県立大等の強みを活かし、住民が前向きに参加できる場づくりと外部連携を進めていくことが重要
- 合意形成は関係者全員で選択肢を作るプロセスとして捉え、対話を重ねていくことが重要
- 地域の課題を起点に実践を重ね、その成果を計画に反映しながら取り組んでいくことが重要
- 将来像を分かりやすく示し、ブランディングの見直しと積極的な対外発信を進めていくべき
- 住民の暮らしを第一に、結果だけでなくプロセスを重視し、多様な視点から前向きな取組を進めていくことが重要

今後の進め方



お問い合わせ先

播磨科学公園都市の新たなあり方 検討協議会マネジメント会議

【事務局】兵庫県企業庁 地域整備振興課
【電話番号】078-362-3698
【E-mail】chiikiseibi@pref.hyogo.lg.jp

テクノのあり方検討
についての詳細情報
はこちらをご覧ください
(兵庫県企業庁HP)

